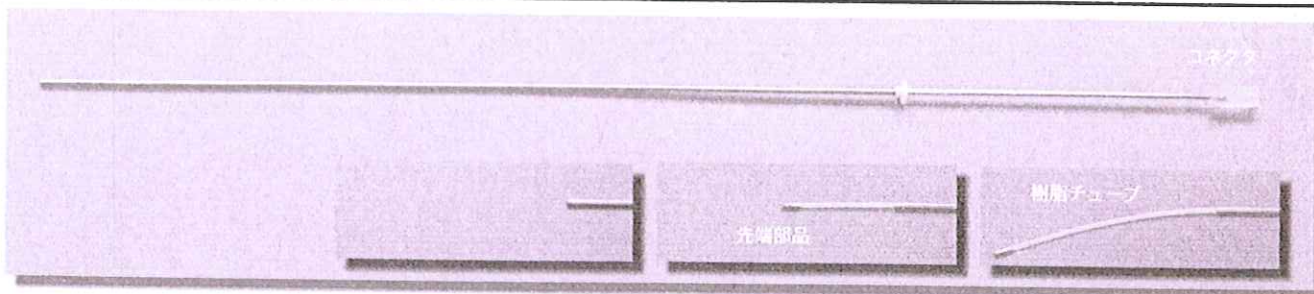
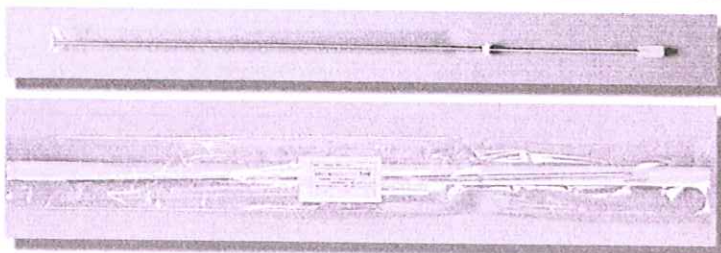


動物用受精卵注入カテーテル モ4号

YM-Method Embryo transfer catheter ... mo-No.4

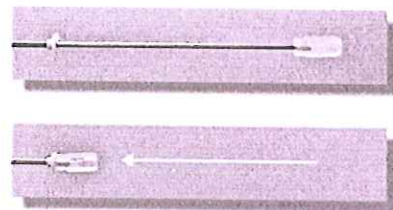


- 子宮深部への受精卵移植カテーテル
- 0.25mL ストロー管での受精卵移植用
- 包装：本体を1本ずつ個別包装
- 梱包：20本入り



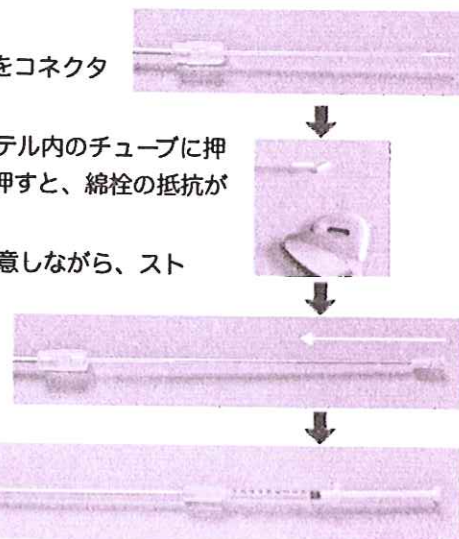
「モ4号」は、“簡易な子宮深部への注入（特に経産牛への移植など）”をコンセプトに、全農（ETセンター）との共同開発で実現しました。

- ◎ 「モ4号」を子宮角まで進めたところで、手元のコネクタを押し込みますと、柔軟な樹脂チューブに取り付けた先端部品が子宮角の形状に沿って進入して深部に到達、受精卵の放出ができます。
- ◎ 汚れよけのカバーチューブをセットして、1本ずつ包装しました。一緒に取り出して、そのまま使用できます。
- ◎ 移植作業1回当たりのコストは、1000円程度の低価格です。



「モ4号」の使い方

- [1] 本体の包装（コネクタ側）を開き、先端の封止部を切り取ったストローをコネクタの穴にしっかり差込みます。
- [2] ストローの後ろから細い棒を使って、ストロー内の受精卵と液をカテーテル内のチューブに押し込みます。（このとき、ストローの綿栓中央の粉のところを切ってから押しすと、綿栓の抵抗が減って押し易くなります。）
- [3] カテーテルの平行を保って、チューブ内の受精卵などが流れないように注意しながら、ストローを抜き、注射器（1か2mL）をコネクタに装着します。（注射器は、受精卵の放出に使用する容量分に内筒を引いた状態で装着します。）このあとに注射器が外れると、液は流れ出てしまいますので、取り扱いに注意。
- [4] カバーチューブを被せたまま、カテーテルを包装袋から取り出して、移植作業にとりかかって下さい。
- [5] カテーテルの先端が子宮角に入ったところで、コネクタを押しして先端部品を伸ばします。目的の深さに達したら、注射器の内筒をゆっくり（4～5秒かけて）押し、カテーテルのチューブ内の受精卵を子宮に放出します。



※注意：保管は、水漏れに注意し、高温、多湿、日光の当たる場所を避けて下さい。包装の水漏れ、破損の場合は使用することは出来ません。本製品は1回のみを使用を前提に設計されておりますので、複数回の使用は行わないでください。

モ4号使用して2年以上になります。もう知っている方も多いと思いますが、とても良い商品なので紹介しました。使用しての感想は受胎率が上がるのはもちろんですが移植のスピードが速くなり移植牛のストレス軽減になると思います。また移植する牛を選ばない器具なので経産牛の移植も増え不受胎牛の受胎率向上に貢献しています。

今後も新しい技術を取り入れながら農場の妊娠率向上にむけ努力していきます。